

# 製塩土器についての研究

大阪府立和泉高等学校

## 1. 研究概要

土器で塩を作る際にかかる時間や、質量が土器の厚さによって変化するか調べる

## 2. 製塩土器

縄文時代に使われていた、塩を作るための土器である。厚さは約1センチであったとされる。

## 3. 研究方法

- ①厚さをそれぞれ3, 5, 7, ミリの土器を用意した。
- ②初めに80mlの海水を入れ、20ml減るとその分足した。
- ③②を4回繰り返し、計80mlの海水を熱した。

## 4. 研究結果

	研究前の重さ (g)	研究後の重さ (g)	研究の時間
7mm	135.84	159.55	17分50秒
5mm	140.21	167.42	34分40秒
3mm	117.25	134.98	52分00秒
ビーカー			44分06秒

## 5. 考察

表を見ると、土器の厚さが厚いほど塩水が減る時間が短くなっているのので、一次関数のようなグラフが出来るのではないか。

これは厚い土器の方が、土器中の穴に塩水を多く貯え、効率よく蒸発させることが出来たためではないか。

## 6. まとめ

今回、土器が多孔質であることを利用し、製塩が行えると再確認できた。

来年にはさらに土器の厚さを細かく分け、本当に一次関数のようなグラフが出来るのかを調べたい。